

元気印の企業訪問



明るく風通しの良いリビング

仲間との連携”住宅完成見学会”
昨年の十二月、吉武工務店は一軒の住まいを竣工させました。施主は同友会の仲間です。吉田氏は施主の協力を得、引越

し前のその住まいを周辺

です。吉田氏自身、施主に対し”心を込める”という思い・姿勢が明確化したのは、平成八年十一月に同友会に入会し、その後、経営指針確立文化セミナーを受けたことがきっかけとなります。かつてのゼネコン時代は、大きな工事の為、施主や、その先にいるその建築物を本当に使用する人が見えずにいたのです。同友会での交流・学びから、お客様の満足と幸せ”を経営と建築の中心に据えた吉田氏は、心を込めた住まいづくりは勿論のこと、お客様の立場に立った経営戦略をとり始めます。

”よしただけオレンヂ”(オレンジ色)に思いを込めて
吉田氏の”お客様第一主義”は、最近(最新)の折込広告を見れば一目で理解できました。なぜなら、広告紙面には、持ち前の技術力の高さや価格の優位性といった宣伝文句が最小限に抑えられ、紙面の半分程に、お客様や建築に対する吉田氏の”思いの丈”が綴られているのです。広告を通じて、吉田氏の心遣いが伝わってきました。
そして、そのチラシの色はオレンジ色。夕暮れ時、家々の窓から漏れてくる温もりや幸せの色です。この色は吉武工務店のイメージカラーで、作業服の刺しゅう(社名)や会社案内にも使われており、お客様に”暖かさ”と幸せを育んでもらえる住まいづくりを提供する”という決意でもあります。

あるスパイスとは……?そうです、工務店がリフォームなどを通じて、経営をサポートする”ということなのです。これは、3Sに取り組んでいる多数の同友会仲間の実践を参考にし、例えば壁や床・

工務店が”経営をサポートする”という着眼点
吉武工務店は個人住宅の他、工場・事務所の新・増築やリフォーム、管繕改修も手掛けています。吉田氏はそこに”あるスパイス”を効かせることを検討しています。

地域から見に来て頂く「見学会」を開催しました。心を込めた施主の願いをカタチにした住まい”を他の方にも見ていただきたい、知ってもらいたいという思いからです。
今回は初めての試みでしたが、参加いただいた方からの反響は良く、その後、数件の商談が進んでいるとか。又、そのチラシには工事に携わった協力企業の社名が一覧表で記されており、同友会の仲間の社名が何社も見受けられます。今回は、各社に協賛いただき、それぞれの宣伝にもなるようなチラシを作りました。施主から広告のチラシに至るまで、それぞれの立場で、それぞれのメリットとなる”同友会の仲間の連携”を実践した”新しい連携のカタチ”ではないでしょうか。

天井のペンキ塗りや、増改築などに伴う機械等のレイアウト変更などを全社的取り組みとして提案し、施工しようとするものです。こんな発想は”労使見解”を軸とし、”全社経営”の実践を唱えている私達同友会会員ならではの斬新なアイデアといえるでしょう。
吉田氏は、同友会での学びを著実に経営に取り入れ、持ち前の情熱と真面目さを武器に、まさに今、発展を遂げているところです。そんな吉田氏は、”心を込めた建築を贈り、皆様が幸せになること”を信条に、将来的には、もっともっと地域に根ざし、地域の住宅や工場、公共施設をひとつでも多くご相談・ご注文いただければ、信用を積み重ねていきたいと語られました。
(取材・文：事務局・小谷)



廊下に天然木のカウンターを

元気印の企業訪問



よし たけ
(株) 吉武工務店
よし だ たけ ひこ
代表取締役 吉田 丈彦氏
(東大阪東支部)

PROFILE

資本金：1000万円
本社：東大阪市池島町 URL：http://www.yoshitake.ne.jp
社員数：8名
事業内容：総合建設業・一級建築士事務所



本社社屋

「もう限界だ。あとは俺がやるしかない」
平成十六年九月、吉田氏は父親(前社長)との確執と経営の危機をほらむ「吉武工務店」を、二代目社長として引き継ぎました。
それを遡ること約六年、吉田氏は大手ゼネコンで現場監督として経験を重ねた後、独立して「吉武工務店」(以下、「丈」)を開業しました。当初二年間ぐらいいは経営が苦しく、個人資金の注入を余儀なくされる状態で、こんなはずではなかった”と思うことがしばしばありましたが、ゼネコン時代のネットワークと施工品質の良さ、真面目な経営がくちコミで広がり、その後の経営は順調に伸びていきました。その当時、「丈」は吉武工務店の一

経営指針確立文化セミナーから”真心”の大切さに気付く
”心をこめた建築を贈ります”。これは、吉武工務店の経営理念

階を事務所として間借りしていましたが、ある日、二階の吉武工務店の事務所に上がってみると、そこには精気のない父の姿が……。職人も何をするとなく、倉庫でブラブラしている様子でした。そうです、仕事がないのです。吉武工務店はこんな状態が日常となっており、経営の危機に直面していました。「これでは駄目だ!」。父と職人の姿に強いショックを受けた吉田氏は、多額の借金を抱える家業「吉武工務店」の再建を決意するのでした。



事務所には沢山の賞状が

”ゆうげ・だんらん・温もりの色。”
”よしただけオレンヂ”
”幸せを育む、心を込めた建築を贈ります”